

原始エルサレム教会の共同体にはたくさんの人達が入って来ましたが、遠方から、離散のユダヤ人（ディアスポラ）と言われる戦乱などでユダヤの国外に散らされ、他国で暮らし他国の言語（主にギリシャ語）、他国の文化圏に生きて来た人達が入ってきました。

この人達の多くは旅するのがやっとなで何の財産も持たずに入ってきました。従って食べ物の配分の時、それらの人達は差別され少なめに配給されたものと思われます。やがて不満が続出しました。食べ物へのうらみは根強いものです。肉体的な生存に最も重要なものと共に、人間の最終的な楽しみでもある食べ物、それに差がつけられるとするならば、それは見過ごしにされる問題ではありません。

歴史の中のこれまでの紛争の原因もつきつめていくなれば、食料や住居といった人間の生存に欠かせない基本的なものが、一方には有り余るほど在りながら他方には著しく少ないといった不公平な在り方によるものが殆どです。従って紛争の解決の道は、強い側が武力で押さえつけるという方法ではなく、その前にこうした差別的状況をなくす事が大切だと思います。

さて話を聖書に戻しますが、原始教会ではこの不公平配分の問題をどのように解決したのでしょうか。ペトロを中心とする使徒達は、分配に関わる専門の執事を7人選んでこれに当たらせる事にしましたが、選ばれたのは7人とも他国からやって来た貧しい側のユダヤ人（ヘレニストと言われるユダヤ人）の中からでした。

この選出は私達にとっては驚きです。普通委員を選ぶ場合、反対するグループから少数入れるとか、弱小グループから少数入れるという事はよくあります。これで反対者や弱小者への配慮をしたという事で殆ど変わりなく議事が進められていきます。

これが一般的な現実の姿です。ところが原始キリスト教会では、執行者全員を他国から移住してきたヘレニストの中から選んでいます。選ばれたヘレニスト達も執行権が自分達の側に来たからといって今までと反対に自分達のグループに都合の良い決定をしたかというところではなく、真に公平に問題を処理していったと思われれます。

もし決定権が自分達の側に来たからといって不公平な配分をしたとするなら、それは単なる権力の移行に終わってしまい事態は決して好転しなかったでしょう。ヘレニスト達は執行権を与えられた事で逆に共同体全体への強い責任感から特に公平に問題処理を行ったものと思われれます。

現代の世界で生じている殆どの紛争や対立は、富の不公平な配分が原因だと言っても過言ではないでしょう。宗教対立や民族対立といっても根っ子には国家間の不平等や民族間の不平等があって、それに宗教や異文化が付随して対立を深めているに過ぎません。

問題解決の鍵は原始キリスト教会が採用したような、貧しい者や弱小者側の立場に立ってそれらの意見や要望をどれだけ取り入れる事が出来るかという事にかかっていると思います。ただしそこには人間への深い信頼感がなければ出来ません。

人間への信頼感はイエスが自分に敵対する者をも許したあの十字架の愛の中に見出す事が出来る筈ですが、人間世界がこの愛を自分達のものに出来る日が果たして来るのでしょうか。

本日は田口重彦牧師に説教していただきます。田口牧師は1934年、お父上の伝道先、朝鮮の平壤でお生まれになりました。山本は西伊豆の松崎教会へ、説教と信徒修養会の講師で行って来ます。2/26(水)10:30~11:30 祈禱会(この日からレント)、3/7(土)13:30~15:00 聖書研究会。3/15(日)の礼拝後に全体話し合い、4/19(日)の礼拝後に定期総会を開きます。皆さん、予定していて下さい。